

第42回 「むれ源平 石あかりロード」

地域づくり活動のノウハウを地域のリーダーに直接伺い、お届けする「地域づくりキーパーソンに聞く」コーナー。

今回は、香川県高松市牟礼町^{むれちよう}で活躍している「むれ源平まちづくり協議会」（以下：まちづくり協議会）の取り組みを紹介します。

まちづくり協議会では、“地域を元気にする”ことを目的に郷土の歴史・文化など地域の資源を活かしたまちづくりに取り組んでいます。その中でも、源平屋島合戦の史跡文化と庵治石^{あじいし}を中心とした石材産業文化をコンセプトとした「むれ源平石あかりロード」の取り組みについて、まちづくり協議会の新谷さん、松山さん、伏見さん、中村さんにお話を伺いました。

【平成21年度「手づくり郷土賞」（一般部門）受賞】



(左から)

「むれ源平まちづくり協議会」会	長	新谷	稔さん
「むれ源平まちづくり協議会」		松山	滋さん
「むれ源平まちづくり協議会」		伏見	真さん
「むれ源平まちづくり協議会」	事務局長	中村	卓史さん

【悠久の歴史を偲ばせる史跡群と世界に誇る石材ブランド「庵治石」の産地】

高松市牟礼町は、「源平屋島の合戦」（1185年）で有名な那須与一の「扇の的」をはじめ源義経などの武勇伝等の舞台であり、戦場となったこの地には、源平の多くの史跡が残っています。

また、牟礼町で採れる花崗岩は良質で、希少性、特質から、石材の単価としては世界一と評価され、「庵治石」の名で広く知られており、この地域には庵治石と400年に渡って深く関わってきた歴史があります。採石する丁場、石加工する工場、そこに築き上げられた匠の職人達の技など、ここ牟礼町でしか見られない石の文化があります。

現在も、山麓には隣の庵治町と合わせて約300の石材店が軒を連ね、日本一の石材産地として頑張っています。



◆ 源平屋島合戦にゆかりある史跡『洲崎寺』（左）と『駒立岩』（右）



◆ 良質な花崗岩が採れる『庵治石の丁場』

【地場産業と地域の歴史を活かしたまちづくりの始まり】

まちづくり協議会の活動のきっかけは、この地域にゆかりのある「源義経」が平成17年の大河ドラマに決定されたことを受け、源平合戦の史跡や風土を活かして「牟礼町をもっと元気なまちに！」と有志数名により、平成16年4月にまちづくり協議会を立ち上げたことに始まります。

協議会は、地域住民・石材関係者・商工関係者・公共交通関係者等で構成され、地域の原風景としての歴史・風土・文化などを活かしたまちづくりを基本テーマとし、原風景と共存した元気で魅力ある観光まちづくりと、石材等を中心とした地場産業振興に寄

与することを目的に、あらゆる角度からまちづくりを展開しています。

主な取り組みには、地域住民及び地元中学生などとの史跡保存活動・ボランティアガイド活動や、街並み景観や公園・駐車場整備についての検討会、地域のガイドマップの作成などがあります。

【むれ源平石あかりロードの誕生】

もともと、時代背景も違う「源平史跡」と「石材産業」を一緒にPRすることは容易ではありませんでした。当時、そのようななかで「大河ドラマ義経の屋島合戦放映に合わせて、源平史跡をライトアップしよう!」といった企画が出されました。ただ、「ライトアップしても、各所に散らばる史跡と史跡は少し離れているので、歩いて見てくれるだろうか・・・。」といった意見もあり、どうすれば「まちの良さ」を上手くPRできるだろうかと議論を重ねた結果、史跡と史跡をつなぐために石あかりを設置するアイデアが生まれました。もちろん、アイデアが生まれたから、実行できるというものではなく、特に会場となる沿道住民の理解やボランティアスタッフの協力無くして出来るものではありませんでした。

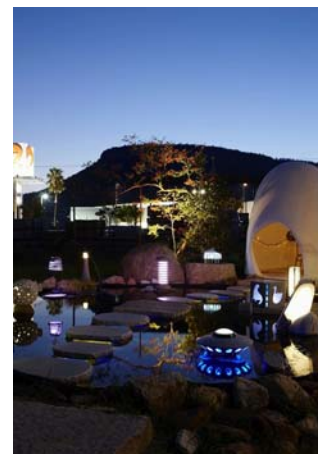
こうして、まちづくり協議会が目指した2つのまちの良さをコラボレートした、地域の歴史、地域の産業かつ地域に住む人が一体となる取り組みとして、H17年8月に「むれ源平石あかりロード」が誕生しました。「ことでん八栗口駅」から「駒立岩」※1までの約1kmの旧庵治街道沿いに、庵治産地の石材職人が心を込めてつくった石あかりを展示し、夏の2ヶ月の期間中に毎晩点灯するというものです。また、展示されている石あかりは購入することもできます。



※1 駒立岩

源平史跡の一つ。那須与一が扇の的を射るときに、馬を立たせたと言われる海の中の岩。

◆ 陰影により和み空間を創出する『むれ源平石あかりロード』



◆ 個々でちがう表情を見せる『石あかり』

【取り組みによる波及効果】

平成 17 年から毎年続けることで、来場者数の増加とともに、色々な効果が現れてきています。庵治石や地場産業の認知度向上を始め、石あかりの出展などにより石材産業者間の交流が刺激になり、若手職人の意識改革にも寄与しています。また、マスコミに取り上げられ地域が PR されることで、地元住民やスタッフの励みにもなっています。特にスタッフは年々増加しており、現在では、約 200 名を超える登録者数となっています。

このように、むれ源平石あかりロードのイベントがもたらす効果は、地域住民と石材産業者の連帯感の醸成や、更には地域の絆の深まり、郷土愛の浸透へと広がっています。
(来場者数 H17 年：約 3 万人、H23 年：約 7.5 万人)
(石あかり出展数 H17 年：150 点、H23 年：300 点)

【運営の工夫】

イベントの運営は、石あかりの販売収益のみでは難しいため、フリーペーパー方式による広報も含め、石材産業者や商工関係者などの協賛により行っています。

また、毎年石あかり出展のため、職人が苦慮する作品づくりについては、デザインの一般公募や展示作品のコンテストを行うことで創作意欲を高め、作品づくりのサイクルに活かしています。展示作品の演出については、「石あかり」と「ガーデニング」など、造園産業などとのコラボレーション企画も行ったりしています。

【今後の展開】

まちづくり協議会では、むれ石あかりロードを核にした取り組みにより、更なる交流人口の拡大を図り、これらの世代間を超えた人的交流の場を通じて地域の担い手を育成しつつ、住民参加による賑わいある地域づくりを目指していきます。

併せて、石あかりを始めとした物産品の開発など、地域ブランドの確立による石材産業者の振興など、相互が関係・循環する仕組みを構築し、持続可能なまちづくりを目指していきます。

[むれ源平まちづくり協議会 HP：<http://www.genpei.org/index.html>]